



氷川参道計画 ～見沼からのおくりもの～

K03139 森 実央

1 はじめに

さいたま市大宮区は武蔵野国一ノ宮で知られる氷川神社の門前町、中山道の宿場町として栄え、明治以降は大宮駅開通を季に鉄道の街として発展してきたという歴史と文化がある。大宮という地名も、氷川神社を大いなる宮と崇めたことからついたものであり、まちと歴史は切り離せない関係にある。しかし、戦後になると、大都市東京に人口が集中し、このまちも都内に勤める人々の住宅地としての顔を強めていく。今日の大宮は、中山道沿道は拡幅により宿場町の古い建物が消滅し、氷川神社は昔と変わらずあるものの住宅に取り囲まれ、宿場町や門前町の雰囲気は感じられない。

さいたま市が首都東京のベッドタウンとして急速に発展してきたため、他の地域から転入してくる人々の数は年々増加している。このように転入してきた区民の暮らしからは、大宮の歴史や文化はかけ離れた存在となっている。そのため、大宮の個性が薄れつつあるという問題を抱えている。区民がまちに対して魅力を感じるための空間や、まちの歴史や文化を後世に伝承していく場が必要である。

本設計では、このまちのランドマークである氷川神社の存在価値を見直しながら、氷川参道の一部を計画する。また、大宮駅に集中している人口を参道へ促し、参道と神社が観光名所としてより多くの人々に親しまれるための空間づくりを行うことを目的とする。



【大宮のランドマーク 氷川神社】

指導教員 伊藤 洋子 教授

2 参道と氷川神社

2-1 氷川参道の概況

氷川参道は、JR 大宮駅の東口、周囲を幹線道路に囲まれた地区にある。参道の並木は延長約2km。氷川参道には三本の鳥居があり、神社から遠い順に「一の鳥居」、「二の鳥居」、「三の鳥居」と呼ばれている。二の鳥居は明治神宮より寄贈移築されたもので、現存する木造の鳥居では関東一大きいと言われている。



【元旦の氷川参道二の鳥居前 多くの参拝客が訪れる】

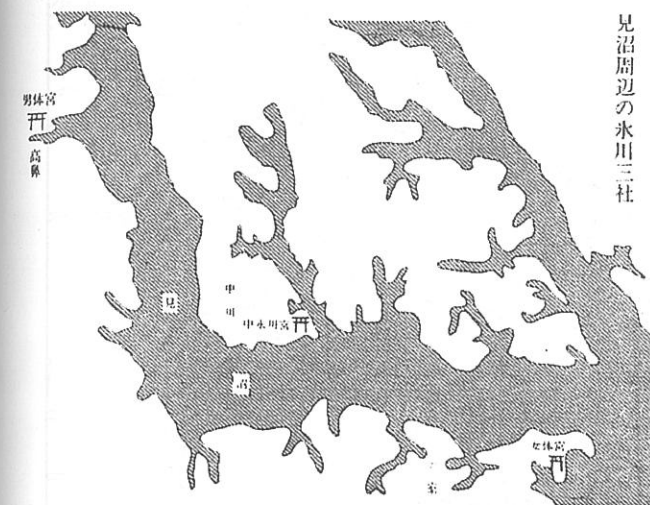
この二の鳥居を通り抜ける前には車道を2度横断しなくてはならない。道路の一つは旧国道16号で現在でも交通量は多く、これが一続きの参道を分断している。また、参道の東西にも車道が広がり、これが周辺から参道へのアクセスを悪くしている。

そこで、参拝客が歩行しやすく、参道を一つの道として機能させるために、車の動線と参道の動線を上下に分けることとする。

2-2 氷川神社にまつわる水

氷川神社は古来、「見沼（御沼・神沼）」と呼ばれる広大な湖水の北端にあった。見沼は、江戸中期の干拓による水田化以前は男体社（氷川神社）と女体社（氷川女体神社）の神が往く水路であった。現在の氷川神社社殿前や、大宮公園にかつての見沼の入り江の姿を見ることが出来る。このまちにとって見沼は特別神聖なものであり、人々の暮らしにとっても身近な存在であった。

また、氷川神社には男性の神を、氷川女体神社（緑区）には妻である女性の神を、その中間にある中川神社（見沼区）には子孫の神を祀っており、一昔前まではこの三社を合わせて一つの壮大な規模を持つ神社であったとも言われている。このことは、氷川神社の格式の高さと見沼との深い関連性をうかがわせる。



つまり、見沼を意識するための水の空間を設けることが、参道と神社がともに息づくための一つの鍵となるのではないだろうか。それに加え、三社のつながりを持たせるためのモニュメント的な建造物が必要とされる。

参道と神社に込められた歴史と神々の物語を、見沼からのおくりものとして空間に表現したい。

3 コミュニティーセンターと参道計画

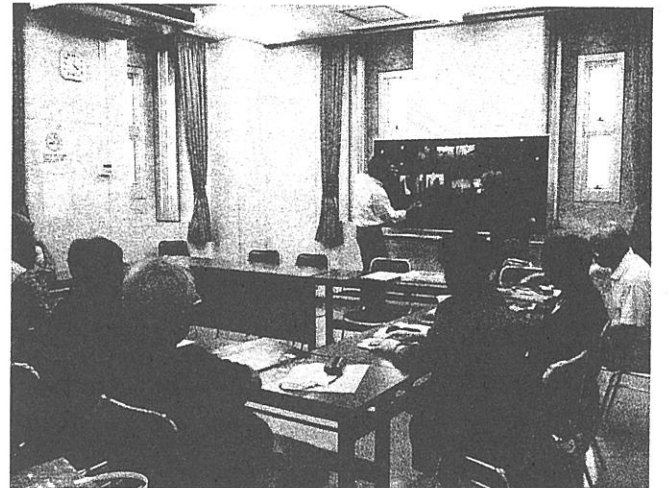
3-1 アクティブシニア

氷川神社と参道に人々の意識を向けさせるためにも、人々が何か目的を持って集まるコミュニティセンターの存在は欠かせない。このセンターに、氷川神社と参道の歴史や大宮の文化を紹介するための郷土資料館や、大宮に欠けた芸術的要素を盛り込んだ区民ギャラリーを設置する。

また、これからの高齢社会シニアたちの老人力はまちづくりに欠かせない。シニアに対するイメージ貢献のために、アクティブシニアの活動拠点であり、地域交流の場ともなる空間が必要である。

さいたま市の高齢者活動団体数は年々増加傾向にあり、公民館利用団体数においては、2004年から2年間で1.5倍の増加、市内NPO法人数にいたっても、2年間で2倍と大きく増加した。「市民意識調査報告書」によると、

中高年層の市民にボランティア活動や社会的活動などへの参加意向があり、アクティブシニアの活動は今後、ますます活発になることが予想される。



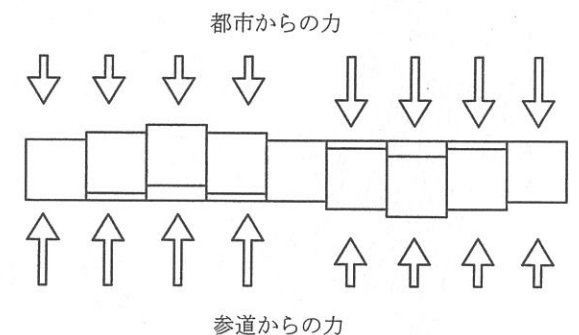
【大宮中部公民館にて 写楽会のみなさん】

その一方で、ボランティアや社会的活動に意欲や関心を寄せる人々が多いなか、どこにアクセスすればいいのかわからない、何をしたいのかわからない、活動情報を手に入れる手段や、活動団体とふれあう機会を持つことは困難である。したがって、これらの人々を受け入れるハードが必要である。

3-2 参道計画

参道脇に設置するコミュニティセンターから氷川神社への参拝を促すために、参道空間の計画が必要である。

この空間は周囲にビルやマンションなどの高層建築と戸建て住宅がひしめき合っており、それらが参道へ向かって混入しようとしているようにも見える。そうした神聖な領域にとって異物なものをブロックとして表現し、都市の力と参道の力によって押しやり押し戻されたりしながら、お互いの力の均衡に保てるような動きを与える。また、神社に近づくにつれより神聖な域に変化していくことをブロックの大きさと素材で表現する。

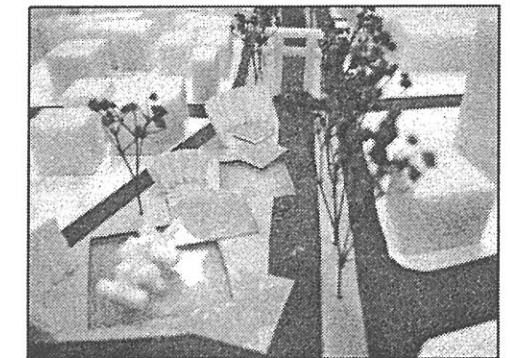
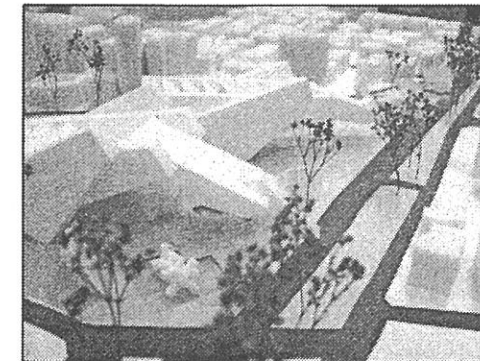




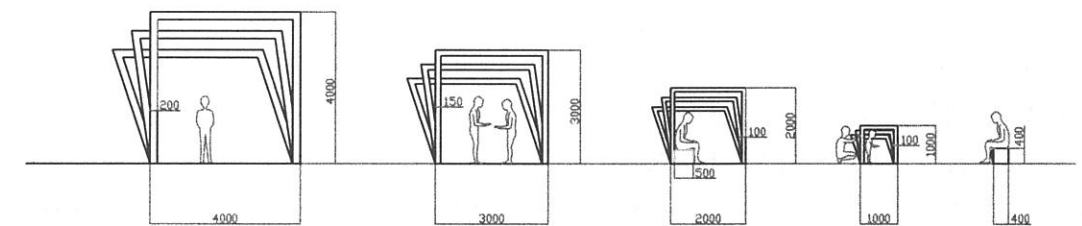
コミュニティ空間

コミュニティ空間の建築は、三体の氷川の神が大地から這出てくるイメージで、それぞれの建築の側には見沼を意識するための水空間がある。

禊の空間には、氷川の神に捧げる舞に使う扇子のようなオブジェクトと、お供え物のオブジェクトが置かれている。



参道のブロック Scale = 1:200



参道のブロックは、人が通り抜けられるものから座れるものまで5種類あり、参拝距離を測る物差しとして参道100m通過ごとに小さくなっている。また、参道の中央は神が通過する場所として、ブロックの配置を避けた。

中のプログラムは、祭りでよく見かける出店や、参道ギャラリー、休息空間、子供の遊び場となるなど、単調で長い参道を歩くことに楽しさを加えている。

以下の写真はボリュームのスタディ。

